



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の回窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第16回 不老不死のお酒

BI 0 チェック いいね! 0 Tweet

国内では46年ぶりとなる皆既日食を見るために、はるばる種子島へ行ってまいりました。

と言っても、私はいわゆる“日食ハンター”(日食の追っかけをしている人)ではありませんし、むしろ少し前までは、(わざわざ混雑する場所に出かけるのは億劫だし、人が撮った写真を見せてもらえば十分)

と考えていたのです。

それが突然、ひょんなことから、親しい友達15人と種子島へ日食ツアーに行くことに。

しかも一緒に行くメンバーがなかなかユニークな専門家ぞろいで、煎茶道の家元はいるわ、立命館大学の映像学部長はいるわ、テレビでおなじみの美人川柳作家はいるわ、顔学会の会長はいるわ、建築家はいるわ、作家はいるわ、まさに開けてビックリ玉手箱状態。

「どうせ行くなら日食観察だけでなく、われわれにしかできないイベントを企画して種子島をまるごと楽しもうよ」

という話になりまして、皆既日食をテーマにさまざまなワークショップを開催することが決定。

私も、「皆既日食とアジアの思想—インド神話における日食」をテーマにレクチャーをしてまいりました。

インドの神話といっても、あまりにも膨大すぎて、一生をかけて研究してもそのすべてを網羅することはおそらく不可能だろうと思うのですが、その特徴をひと言であらわすならば、「とてつもなく大きな宇宙的スケールの超時空感覚」に尽きるでしょう。

大多数のインド人が帰依するヒンドゥー教には、3億3000万柱という気が遠くなるほどたくさんのお神さまと、その化身がいるといわれますが、なかでも最も位の高い神さまは、宇宙創造神であるブラフマー(仏教でいうところの梵天)です。


- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)

① ×

糖尿病が不安な方へ

東京大学と共同発見、アガリクスの50倍の免疫効果を持つ新成分プロリコ。今だけ資料を無料配布

brolico-research.jp



「ブラフマーの1日」という神話によれば、神の1日は人間界の時間に換算すると86億4000万年に相当します。現代科学が太陽の寿命を約100億年と見積もっていることから想像するに、86億4000万年という数字は、ひょっとすると恒星の寿命のことを言っているのかも知れません。

おそらく古代のインド人たちは、こういう天文学的な数字を、ああでもない、こうでもない毎日考えていたのでしょう。ですから、彼らが考えた日食神話も面白くないわけがありません。

インド人によれば、昔むかし、神々の一族と阿修羅の一族にはどちらも寿命があって、人間と同じように、いつかは死んでしまう存在でした。

そもそも阿修羅という神は、イランのゾロアスター教における最高神（アフラ・マズダー）が起源といわれ、たいへん位の高い神さまだったのです。しかし、ヒンドゥー教に取り入れられてからはグンと地位を落とされ、魔神としての役割を負わされてしまいました。

インドの言葉では、「ア」という接頭語が「～に非ず」を意味することから、アシュラは「天（シュラ）に非ず」すなわち「神の反対」という意味になってしまったのです。

神話時代の初期において、神々と阿修羅の世界が混頓としていた頃には、どちらが絶対善でどちらが絶対悪といった二元論的な価値観はまだ生まれておらず、不完全な存在であるという意味において、両者は互角でした。だからこそ、

「年をとることも死ぬこともない、永遠の生命を得たい！」

と神々は切望したわけですが、そのためには「アムリタ」という名の不老不死の飲みものを飲む必要がありました。

アムリタを得るためには、海をかき混ぜる必要があることを知った神々は、阿修羅にも協力を要請し、海を攪拌（かくはん）する作業を開始します。

そのやり方がまたダイナミックで、まず、地面から引き抜いたマンダラ山を海の真ん中に置き、山のまわりに大蛇を巻きつけて、大蛇の頭のほうを阿修羅族が、尻尾のほうを神族がつかんで交互に引っ張ります。そうやって山をぐるぐると回転させることによって、海のなかを1000年間にわたって掻きまわしたのです（これを「乳海攪拌神話」と呼びます）。

まるで怪獣映画のような光景ですが、このとき、海を掻きまわすための攪拌棒として使われたマンダラ山の標高が約1万5000キロメートル（なんと地球の直径よりも高い！）と聞けば、そこに巻いた大蛇もとんでもない長さだったことが想像できますね。

さて、こうして海が攪拌されると、海中からはありとあらゆる宝物があらわれました。お待ちかねのアムリタが入った壺もあらわれました。これを見ると、神と阿修羅はアムリタをめぐって全面戦争に突入。アムリタは、いったんは阿修羅の手に渡りかけてしまいます。

万事休す！

ところがこのときヴィシュヌという名の神さまが、絶世の美女に変身して阿修羅を惑わし、阿修羅たちがだらしく鼻の下を伸ばしたそのすきに、まんまとアムリタを奪い取ることに成功します（神や阿修羅の世界でさえ、男性は美女に弱いということのようですね）。

こうして神々は、ようやく手に入れることのできたアムリタを分配して飲もうとするのですが、ラーフという名の阿修羅だけがちゃっかり神々の行列に並び、ひとり分のアムリタを手に入れてしまうのです。

しかし、ラーフがアムリタをひとくち口に含んだその瞬間、目ざといスーリヤ（太陽神）とチャンドラ（月の神）が、ラーフの正体を見破って大声で叫びました。

「そいつは神じゃない。阿修羅だ！」

これを聞くと、それまで絶世の美女に変身していたヴィシュヌ神が、いちはやく本来の姿にもどり、円盤形の武器を投げてラーフの首を切断。これによって、ラーフの首から下は絶命しましたが、すでに口のなかにアムリタが含まれていたために、なんとラーフは首から上だけ永遠の命を得てしまったのです。

こうして首から下がない頭だけの化け物になったラーフは、以来、スーリヤとチャンドラを深く恨むようになり、両者を追いかけて行っては、見つけ次第、ゴクンと丸飲みするようになりました。

しかし、なにしろラーフには首から下がありませんから、口から飲み込んだ相手（太陽または月）は、喉を通して、そのあとすぐに外へ出てしまいます。つまり、これが日食と月食の原因なのだよと、インドの神話は伝えているのですね。

どうでしたか。子どもっぽくはありますが、なかなかユーモラスな神話だと思いませんか。

ところで、この神話に登場する不老不死の妙薬「アムリタ」のことを、日本語では「甘露」といいます。

実は、種子島でこの話をしたとき、レクチャー会場では地元の美味しい芋焼酎がふるまわれたのですが、そこで出された焼酎の名前が、なんと「甘露」！ 偶然とはいえ、これには本当にびっくりしました。

皆既日食のほうは、残念ながら今回は雨のために見ることはできませんでしたが、種子島に滞在するあいだに、心なしか寿命が伸びたような気がするの、島の美しい風景と、人々の屈託のない笑顔、それに、アムリタのマジカルパワーのせいかも知れません。

≪ 第15回 アンチエイジング 第17回 35年目の同窓会 ≫

山田 真美（やまだ・まみ） プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士（高野山大学）。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学（豪）でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。



山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>

6ヶ月でイラストレーターに

働きながら通えるクリエイター系専門校／学費は月々4250円から！
バンタン vantan-career.comへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



© 2002-2016

真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう！](#)

[ないけんしてみよう！](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん！](#)

[ぶつ仏クイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院NewS](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

日本が国の借金で破綻しない理由

1049兆円の借金とは何なのか？その真相に迫る。 keieikagakupub.comへ進む

